

下水処理にポンプ提案

ラサ商事、残留汚水効率削減

ラサ商事は2024年度から下水処理施設向けに耐水型汚泥処理ポンプの販売を本格展開する。マンホール用などに展開する無閉塞

(へいそく)の水中ポンプを、下水処理場向けにも提案・営業する。既存製品を活用して迅速かつ適正コストで導入する。ゲリラ豪

雨や河川の氾濫などで下水処理施設への被害が増加し、国が下水処理施設の浸水対策を進めていることから中長期的に取り組む。

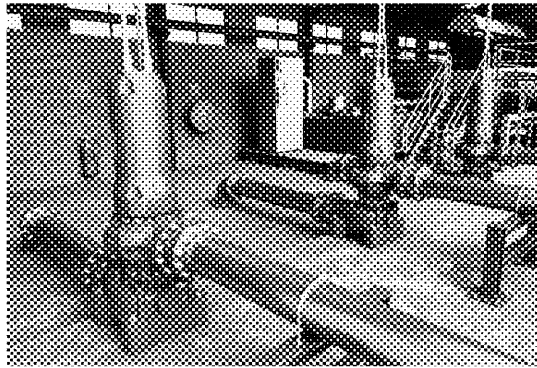
19年の東日本台風など近年の災害で、各地の下水処理場やポンプ場が被災する例が相次いでいる。そこで日本下水道新技術機構(東

京都新宿区)とラサ商事、新明和工業などは共同研究により、23年9月に耐水型汚泥ポンプに関する技術マニュアルを作成した。

これを受け、ラサ商事では自社の水中ポンプ「ヒドロスタル水中ポンプII写真」を活用し、新規分野に位置付ける下水処理施設向け

汚泥処理ポンプを展開する。

同水中ポンプは効率



的に残留汚水を削減できるほか、汚水から発生するスカムや沈殿物の堆積も防

げることができる。マンホールなどに広く導入されている。

これら既存の製品や営業人員を活用し、下水処理施設向けに拡販していく考え。